

出題分析		
試験時間 90分	配点 ※	大問数 6題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>関西学院大学の英語の大問構成は、長文読解3つ、文法・語法、和文対照英文整序、会話文空所補充(全6題)という形に落ち着いており、今年もその構成が踏襲されている。昨年度の同一日程と比べて、読解で内容一致を含む大問が2つから1つに減った。長文読解、文法・語法、会話文、いずれも難解な問題は見当たらないが、時間に余裕はなく、すべて解き切るには相当の訓練が必要になる。まずは正確な文法・語法の知識が全ての基礎となる。</p>		

※ 学部・型・方式により、配点が異なる。入試要項を参照。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「科学の客観性の前提にあるもの」 ○ 語数：674語 (昨年) 762語	科学研究において客観的な観察は当然視されているが、何に目を向けるかという恣意性がその前提にあることを述べた文章。空所補充 A の(5)の c. some は文意からも分かるが、than 以下の any との対比もヒントになる。同義語句選択 B の(カ)は、論の流れをしっかりと追えていないと難しい。	やや難
II	長文読解 「動物は人間の言語をどれほど理解できるか」 ○ 語数：481語 (昨年) 347語	動物がどのように、そしてどの程度人間の言語を理解するかについて述べた文章。空所補充 A の(2)は、呼応する動詞が has であることから、空所直後の species が単数形として用いられていると判断できる。同義語句選択 B の(ア)は、下線部の直前と直後部分から意志疎通の手段とわかる。	標準
III	長文読解 「人類史における農業革命の意義」 ○ 語数：383語 (昨年) 408語	人類史において農業革命がどのような影響をもたらしたかを述べた文章。同義語句選択 A の(3)は、b. Included in が正解。CVS の倒置が起きている。質疑応答選択 C の(ii)は、本文の during が選択肢 a. では before になっているのが間違い。	標準
IV	文法・語法	(5)は、関係代名詞の非制限用法。先行詞は前の内容全体を指す。(8)は、主部に～ as well as …「…同様、～」が使われ、空所直前の a large table でなく、文頭の Additional chairs に動詞が呼応する。内容的に受け身で、d. were brought が正解。	標準

設問別講評			
V	和文対照英文整序	いずれも標準的な文法・熟語の知識があれば解けるが、それをいかに組み合わせるかが問われている。(3)では、仮定法で倒置が起きること、(5)では、What を kept O from Ving と繋げて和文の意味を成立させることがポイントになる。	標準
VI	会話文空所補充 「工具箱はどこ？」 ○ 語数：260 語 (昨年) 217 語	父親が娘に工具箱のありかを尋ねる会話である。口語表現が多いが、紛らわしい選択肢はない。(1)の happen to know ～？は「～をひょっとして知っている？」というクッション言葉。(9)の close は「もう少しで (危ない所だった)」ということ。これで後の nearly cut off his fingers に繋がる。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)							
大問番号	設問数	選択式					
		空所補充	同義選択	質疑応答	内容一致	語句整序	その他
I	3	5	6	3			
II	3	5	3		2/6		
III	3		4・3	2			
IV	1	10					
V	1					5	
VI	1	10					

※「選択式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。ただし、内容一致については、正答数/選択肢数 を表している。

合格のための学習法
<p>関西学院大の入試で高得点を取るために最も重要なのは、身につけるのにいちばん時間のかかる英文読解力をつけることである。そのためにはまず1学期のうちに、暗記ではなく理解を重視した、英文を読むための文法を身につけよう。同時に毎日こつこつ辞書を使って時間をかけて英文を読む生活を始めよう。スピードを気にすると英文読解は身につかない。もちろん市販の単語帳を使って毎日単語・熟語を覚えたり、過去問などを通して文法問題や語句整序、会話文など、関学が出題する多様な問題形式に慣れたりすることも重要だ。しかし英語の勉強時間の大半を英文読解にかけてほしい。英文読解への取り組み方が合否を分ける。</p>